

県営住宅（宮園団地）1号棟屋内配管その他設備改修工事

図 面 表			
記 号	種 別	名 称	縮 尺
M - 1	給水設備	機械設備改修工事特記仕様書（1）	
M - 2	給水設備	機械設備改修工事特記仕様書（2）	
M - 3	給水設備	機械設備特記仕様書（補足）	
M - 4	給水設備	案内図・配置図・改修概要	1/500
M - 5	給水設備	系 統 図	
M - 6	給水設備	32戸建 1～4階平面図	1/100
M - 7	給水設備	平面詳細図（現状）	1/30
M - 8	給水設備	平面詳細図（改修後）	1/30
M - 9	給水設備	仮設給水図・床下平面図	1/100

青森県中南県土整備事務所
吉川設備設計事務所

I工事概要

県営住宅（宮園団地）屋内配管その他設備改修工事特記仕様書

1. 工事場所

弘前市大字宮園四丁目 地内

2. 建物概要

建物名称	構 造	階 数			建築基準法上の面積		消防法施行令 別表第1の区分	備 考
		地上	地下	塔屋	建築面積（㎡）	延べ面積（㎡）		
県営住宅	RC造	4					(5) ロ	改修

3. 工事種目（●印のついたものが対象工事）

工事種目	工事種別		屋 外
	県営住宅		
○ 空気調和設備			
○ 換気設備			
○ 排煙設備			
○ 自動制御設備			
● 衛生器具設備	一式		
● 給水設備	一式		一式
● 排水設備	一式		
○ 給湯設備			
○ 消火設備			
● ガス設備	一式		
○			
○			

4. 指定部分

● 無し

○ 有り 範囲： 工期：令和 年 月 日

5. 設備概要（●印の付いたものを適用する。）

方 式	設 備 概 要
空気調和方式	○空気調和 ○温風暖房 ○温風暖房 ○直接暖房 <既設>○個別方式（GHP） <改設>○個別方式（GHP） <改設>○温風暖房機 <改設>○温風暖房機 <改設>○
自動制御方式	<既設>○電気式 <改設>○電気式 ○電子式 ○デジタル式
給水方式	<既設>●加圧給水方式 ○高層タンク方式 <改設>○水道直結方式 ○高層タンク方式
排水方式	建物内の汚水と雑排水 <既設>●分流 ○合流 <改設>○分流 ○合流 放流先 汚水 <既設>●下水道直放流○浄化槽 <改設>○下水道直放流○浄化槽 雑排水 <既設>●下水道直放流○浄化槽 <改設>○下水道直放流○浄化槽
給湯方式	<既設>○局所式 ○中央式 <改設>○局所式 ○中央式
消火設備方式	屋内消火栓設備 <既設>○湿式 ○ <改設>○湿式 ○ 連結給水管 ○窓素スプリンクラー設備 <既設>○湿式 ○ <改設>○湿式 ○
ガス設備方式	●都市ガス（種別 13A、高位発熱量 45.0MJ/m ³ （N）、低位発熱量 40.6MJ/m ³ （N）、供給圧力 2.5Pa） 一般ガス導管事業者名 弘前ガス株式会社 ○液化石油ガス

II工 事 仕 様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）」（平成31年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）」（平成31年版）（以下、「標準図」という。）による。ただし、改修標準仕様書に記載されていない事項は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」（平成31年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。

(2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様は（ / ）図、建築工事の特記仕様は（ / ）図による。

2. 特記仕様

●印の付いたものを適用し、○印の付いたものは適用しない。

章	項目	特記事項
一般共通通事項	○適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧及び積雪荷重の算定は次の条件による。 <div>○ 風圧力 風速（V₀= m/s）、地表面粗度区分（ ）</div> <div>○ 積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表（ ）</div>
	○工事期間中停止させない機器	○ なし ● 有り 便所
	○再使用品の特定清掃等	○ ○
	○再使用品の状態及び性能・機能確認	○ ○
	●機材の品質等	(1) 本工事に使用する材料・機材等は設計図面に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 <div>(2) 別表に機材等名が記載された製造業者等は次の①から⑥すべて事項を満たす証明となる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料の提出を省略することができる。<div>①品質及び性能に関する試験データを整備していること。</div>②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。</div> ③安定的な供給が可能であること。

④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。

⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。

⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。269

●機材の承諾図

●環境への配慮

一般共通通事項

機械設備工事機材承諾図様式（令和元年版）によるほか、監督職員の指示による。

1) 本工事中において、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和2年2月閣議決定）」による特定調達品目の判断の基準を満たす環境物品等を選択するよう努める。

ただし、公共工事分野の特定調達品目の機材を使用する場合は、判断の基準を満たすものとする。

2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④までを満たすものとする。

① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、華盛層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、断熱材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。

② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。

③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。

④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用しものとする。

① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三种ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料

○足場その他

○別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。

○本工事で設置する。

足場を設ける場合は、「「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の（2）手すり据置方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行う。

○内部足場 種別○A種 ○B種 ○C種 ○D種 ○E種 ○F種 ○G種

○外部足場 種別○A種 ○B種 ○C種 ○D種 ○E種 ○F種

防護シート ○設置する ○設置しない

○材料、撤去材等の運搬方法（建築工事編2.2.1表2.2.2による。）

種別○A種 ○B種 ○C種 ●D種 ○E種

○仮設間仕切り 種別○A種 ○B種 ○C種

○既設部分の養生 ○行う ○行わない

建築物内での火気の使用は原則として行わない。

公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）によるほか下記による。

事前調査 ○本工事 ○別途

調査項目 ○ ○

調査範囲 ○図示 ○

調査方法 ○図示 ○

○はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行う。ただし、走査式埋設物調査で埋設物の調査ができない場合は、監督職員との協議による。

イ) 下記の撤去部位は、石綿含有製品が使用されており、原則、調査不要とする。

○保温材（石綿入りウレthane保温材1号）

○たわみ継手

○保温外装材（アスベストセメント）

調査範囲 ○（熱源機器 ○）

調査方法 ○（型番確認の上製造者ヒアリング ○）

種別 ○A種 ○B種（ただし、コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類）

イ) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。

ロ) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は原則として表示された数値以下とする。50Hzとする。

換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は製造者規格による標準品としてもよい。

設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて建築設備耐震設計・施工指針2014年版（独立行政法人建築研究所監修）による。

(1) 機器の据け及び取付

設計用水平地震力は、機器の質量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあては有効質量）に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。地域係数は、昭和55年建設省告示第1793号（最終改正 昭和62年建設省告示第1918号）による。

注1) 上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上建の場合は 上層4階とする。

中間階とは地下階及び1階を除く各階で上層階に該当しないもの。

注2) 屋外設置機器の耐震は 階及び地下階に準ずる。

イ) 本施設は（●一般の施設 ○特定の施設）とする。

ロ) 100kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものを除く）においても耐震を考慮し、据付け又は取付を行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。

○給水機器（ ）

○排水機器（ ）

○換気機器

○空調機器

○熱源機器

○防災機器

○監視制御設備

○危険物貯蔵装置

○火を使用する設備

○避難経路上に設置する機器

(2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とする。

一般共通通事項

○総合試運転調整

●弁等のサイズ

○建物導入部配管の変位吸収

○絶縁継手取付箇所

○溶接部の非破壊検査

○支持及び固定

○支持金物・固定金具

○地中埋設機等

●技能士の適用

○既存躯体への穿孔

●あと施工アンカー

○既設インサート他

○配管の試験

○他工事との工事区分

●保温外装

●塗装

●電線類

○冷媒（フロン系）回収

空気調和設備

○設計室温度

○ばい煙濃度計

○煙突

○銅板製煙道

○ダクトの区分

○スパイラルダクトの区分

○長方形ダクトの工法

○風量測定口

○ダンパー

○配管材料

○弁類

○鋼管用伸縮管継手

○温度計（水高計）

○瞬間流量計

○チャンパー

○保温

○塗装

○工事対象部位の個別試運転調整を行い、下記の測定報告書を提出する。

○各機器の個別運転調整後に下記の総合調整を行い、測定報告書を提出する。

○風量調整 ○水量調整 ○室内外空気の温度の測定

○室内機風流及びじんあいの測定

○騒音測定

特記されていない弁等のサイズは機器付属品を除き接続配管のサイズと同じとする。

図示の箇所に施工する、施工方法は下記による。

標準図 施工4（○（a）） 施工5（○（b）） ○（c））

図示による。

対象配管系統 ○冷温水 ○冷却水 ○消火（水用） ○油 ○ガス

標準仕様書記載以外の天井吊形、カセット形、天井隠い形の機器の支持は吊り用ボルトで行い、振れ止めを施したものとす。

イ) ポンプ、屋外機器及び屋外の配管・ダクトに使用する支持金物はステンレス製（SUS304）とする。

ロ) 振動を伴う機器の支持金物のナットはダブルナットとする。

ハ) 冷水及び冷温水管の吊バンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用する。

ニ) 冷媒管の吊り用支持受け材として保護プレートと、断熱材被覆銅管と吊り金物との間に1設け、自重による断熱材の食込みを防止する。

1) 地中埋設機（図示の位置） ○要 ○不要

2) 埋設表示テープ（排水管を除く） ○要 ○不要

●配管施工（配管工事） ○建築板金施工（ダクト製作及び取付け）

●熱絶縁施工（保温工事）

○冷凍空調調和機器施工（チリングユニット、パッケージ形空調調和機の据付け及び整備）

穿孔機械を使用し既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工する。

●金属強度系アンカー（※本体打込式） ●接着系アンカー（接着剤は有機系とする）

ただし、配管・ダクト・機器等の天井つり下げ用アンカーには、接着系アンカーを使用しない。

イ) 性能確認試験 ○行わない ○行う ロ) 施工後確認試験 ○行わない ○行う

既設インサート及びアンカー ●使用する ○使用しない ○使用する

既設配管系統の試験 給 水 ○行わない ○行う 排 水 ○行わない ○行う

冷温水 ○行わない ○行う 冷却水 ○行わない ○行う

試験方法 給 水 ○ 排 水 ○

冷温水 ○ 0 冷却水 ○ 0

工事区分表による。

●屋内露出の保温外装は、合成樹脂カバー2とする。

●保温を行わない居室、便所、湯沸室及び屋外の露出配管（銅管）、ダクトには塗装を行う。

○図示による。

電線及びEMケーブルは標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。

冷媒機等の撤去に伴う冷媒回収方法は、改修標準仕様書第3編2.4.3により適切に行うこと。ただし、家電リサイクル対象機器は除く。

冷媒回収の費用は（○本工事 ○別途）とする。

家電リサイクル対象機器の冷媒回収方法はポンプダウン方式とする。

外気条件 屋内（調整目標）

	外気条件	屋内（調整目標）								
		一般系統				廊下・便所系統				アリーナ・更衣室系統
	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）
夏季	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
冬季	-5.4℃	83.1%	22.0℃	%	18.0℃	%	15.0℃	%		%

取付箇所は図示による。

○別途 ○本工事（鋼板厚 mm、高さ m以上）

板厚は煙道径300mm以下は3.2mm、300mmを超えるものは4.5mmとする。

煙道を設置する場合、ばい煙測定口（口径100φ、タビピン）を設けること。（煙道径400mmを超えるものには、掃除口に蝶番を取り付けること。）

既設 ○低圧ダクト 改設 ○低圧ダクト

既設 ○低圧ダクト 改設 ○低圧ダクト

既設 ○アングルフランジ工法 改設 ○コーナーボルト工法（共振又はスライド）

取付箇所は図示による。取付面は監督職員の指示による。

1) 防煙ダンパー 復帰方式 遠隔式（定格入力はDC24V、0.7A以下とする。）

2) ピストンダンパー 復帰方式 遠隔式

イ) 冷温水管 既設 ○配管用炭素鋼管（白） 改設 ●配管用炭素鋼管（白）

ロ) 冷却水管 既設 ○配管用炭素鋼管（白） 改設 ○配管用炭素鋼管（白）

ハ) 蒸気管（給気管） 既設 ○配管用炭素鋼管（黒） 改設 ○配管用炭素鋼管（黒）

（送管） 既設 ●圧力配管用炭素鋼管（黒）（Sch40） 改設 ○圧力配管用炭素鋼管（黒）（Sch40）

ニ) 油管、油用送気管（一般） 既設 ○配管用炭素鋼管（白） 改設 ●配管用炭素鋼管（白）

（土油） 既設 ○ポリエチレン外面被覆鋼管改設 ○ポリエチレン外面被覆鋼管

ホ) 膨張管、空気抜き管、膨張タンクよりボイラー等への補給水管

既設 ○配管用炭素鋼管（白） 改設 ●配管用炭素鋼管（白）

ヘ) 空調用補給水管 既設 ○ステンレス鋼管（SUS304） 新設 ○ステンレス鋼管（SUS304）

空調用排水管 既設 ○配管用炭素鋼管（白） 改設 ○配管用炭素鋼管（白）

チ) 冷媒管 既設 ○断熱材被覆銅管（難燃性） 改設 ○断熱材被覆銅管（難燃性）

○弁類

○鋼管用伸縮管継手

○温度計（水高計）

○瞬間流量計

○チャンパー

○保温

○塗装

換気設備

○標準事項

○厨房用排気フード

○厨房用排気ダクト

○厨房用排気フード

○多湿箇所の排気ダクト

○保温

○ダクト

○排煙口の形式

○排煙口の開放装置

○排煙風量測定方法

○中央監視制御装置

○中央監視制御装置の構成・機能

●計装用配線

●電動弁

●弁耐圧

○衛生器具洗浄方式

○改設

○小便器自動洗浄

○改設

○器具付風水栓

○自動水栓

○紙巻器

○衛生器具ユニット

○水量器

○水量器柵

●配管材料

●弁類

○不凍水栓柱

●給水栓

●埋設深さ

●保温

○ステンレス管の接合方法

○引込納付金等

○排水管材料

○排水試験継手

○台所流し等の排水管

○衛生器具と配管接続要領

○放流納付金等

〔○空気調和設備の当該事項に準ずる。〕

○ダクトの区分 ○長方形ダクトの工法 ○風量測定口 ○防煙ダンパー

○チャンパー ○塗装 ○スパイラルダクト

○既設 ○新設（○別途 ○本工事）

アングルフランジ工法とする。

既設○垂鉛鉄板 改設○ステンレス鋼板（SUS304）（板厚は衛生器具表空調1の厨房排気ダクトの板厚表による）

既設○垂鉛鉄板 改設○ステンレス鋼板（SUS304）（板厚は衛生器具表空調1の厨房排気ダクトの板厚表による）

既設 材質（天幕とも） ○ステンレス鋼板（SUS304） ○

既設 フード周囲の天幕（フード面から天井面まで） ○有 ○無

改設 材質（天幕とも） ○ステンレス鋼板（SUS304） ○

改設 フード周囲の天幕（フード面から天井面まで） ○取付 ○取付ない

改設 フードコック ○取付 ○取付ない

厨房系統、浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統のダクトのシールは標準図のNシール＋Aシール＋Bシールとする。

水抜き管 ○要 ○不要

空気調和設備の当該事項による他、全熱交換器の給気ダクトの保温を行う。

既設 ○垂鉛鉄板 改設 ○普通鋼板（厚1.6mm以上）

既設 ○垂鉛鉄板 改設 ○普通鋼板（厚1.5mm以上）

既設 ○スリット形 改設 ○パナル形 ○ダンパー形

既設 ○スリット形 改設 ○パナル形 ○ダンパー形

既設 ○電気式（遠隔操作機能） ○有 ○無

改設 ○電気式（遠隔操作機能） ○要 ○不要

建築設備定期検査業務基準書平成20年版（一財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。

●●有り（●新設 ○既設） ○無し

イ) 中央監視制御装置の構成・機能は別紙による。

ロ) 中央監視装置のソフト追加、変更及び機能変更 ○有り ●無し

電線及びEMケーブルは標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。

屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。

天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。

開閉状態の遠方表示用接点を ○設ける ●設けない。

●1.6MPa

既設 ●洗浄タンク方式 ○洗浄弁方式（不凍結節水弁付）

改設 ●洗浄タンク方式 ○洗浄弁方式（不凍結節水弁付）

既設 個別感知方式とする。（○小便器一体型 ○小便器分離型）

改設 個別感知方式とする。（○小便器一体型 ○小便器分離型）

固定こま式（節水こま式）とする。

電源供給 ○AC100V ○乾電池 ○自己給電

手動スイッチ ○要 ○不要

ワンハンドカット機能 ○要 ○不要

別図による。

既設 親メーター ○直読式 ○パルス式 ○電文式 ○買取り（側側メーター ○有 ○無）

既設 子メーター ○直読式 ○パルス式 ○電文式 ○買取り（側側メーター ○有 ○無）

改設 親メーター ○直読式 ○パルス式 ○電文式 ○買取り（側側メーター ○有 ○無）

改設 子メーター ○直読式 ○パルス式 ○電文式 ○買取り（側側メーター ○有 ○無）

イ) 一般配管用

ロ) 土間配管用（厨房、浴室等のシンダー内含む）

既設 ●塩ビライニング鋼管（OVA ●VB） 既設 ○塩ビライニング鋼管（OVD）

改設 ●塩ビライニング鋼管（OVA ●PB） 改設 ○塩ビライニング鋼管（OVD）

ハ) 屋外地中用

既設 ○塩ビライニング鋼管（VD）○ビニル管（OVP OH1VP）○ポリエチレン管

改設 ○ポリエチレン管 ○水道配水用ポリエチレン管

イ) 水道直結部分 ○10K

ロ) その他の部分 ●5K ○10K

○ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする

化粧ケーシング（○アルミニウム合金製 ○合成樹脂製）

イ) 屋内（●一般水栓 ○耐寒水栓） 屋外（○耐寒水栓 ○一般水栓）

ロ) 湯沸室、台所、厨房用水栓は泡沫式とする。

ハ) 耐寒水栓はJWWAの認証品とする。

イ) 一般敷地内（0.0m以上） ロ) 敷地内車両道路（0.0m以上）

イ) 屋外露出管（弁、フランジを含む）の保温は、標準仕様書第2編3.1.4表2.3.5e2・（ハ）とし厚さは呼び径2.5mm以下は50mm、呼び径32mm以上は40mmとする。

イ) 呼び径60SU以下 SAS322（一般配管用ステンレス鋼管の管継手性能基準）を満足した継手による接合

ロ) 呼び径75SU以上 ○溶接接合 ○ハウジング形管継手による接合 ○フランジ接合

○要（○本工事 ○別途） ○不要

イ) 屋内汚水管 既設 ○メカニカル形排水用鉄鋼管・給管

改設 ○排水用塩ビライニング鋼管・給管

改設 ○排水用塩ビライニング鋼管・給管

改設 ○排水用塩ビライニング鋼管・給管

改設 ○排水用塩ビライニング鋼管・ビニル管（RF-V） ○配管用炭素鋼管（白）・ビニル管（RF-VVP）

※ビニル管（RF-VVP）は、衛生器具との接続に異なる。）

ハ) 通 気 管

既設 ○コンクリート管 ○ビニル管（VP）

改設 ○配管用炭素鋼管（白）

改設 ○ビニル管（RS-VU） ○ビニル管（REP-VU）

ホ) ポンプアップ管（汚水系）

既設 ○排水用塩ビライニング鋼管（圧送MD） 既設 ○配管用炭素鋼管（白）（圧送MD）

改設 ○排水用塩ビライニング鋼管（圧送MD） 改設 ○配管用炭素鋼管（白）（圧送MD）

図示の位置に取り付ける。

台所流し等の床面上露出部分の配管は、ビニル管（RF-VVP）でもよい。

公共建築設備工事標準図（○施工63 ○施工64）

○要（○本工事 ○別途） ○不要

県営住宅（宮園団地）屋内配管その他設備改修工事

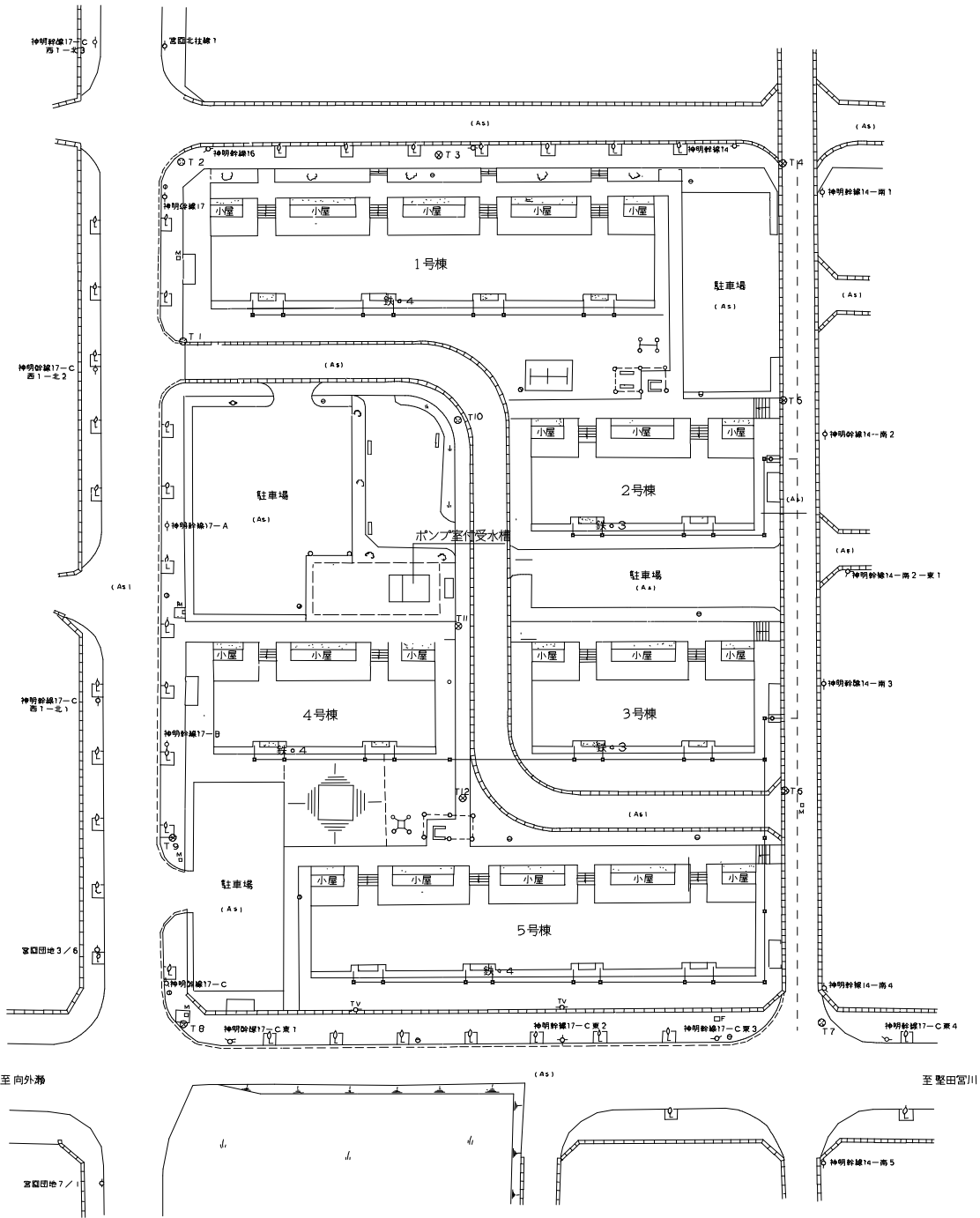
機械設備改修工事特記仕様書（1）

吉川設備設計事務所

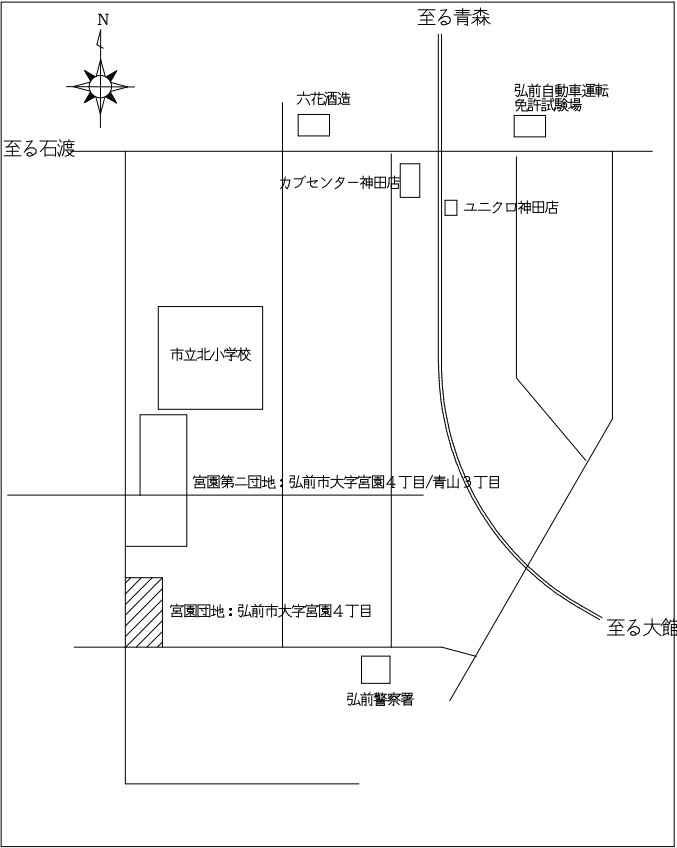
令和4年3月

17

一般共通通事項



配置図 S=1/500

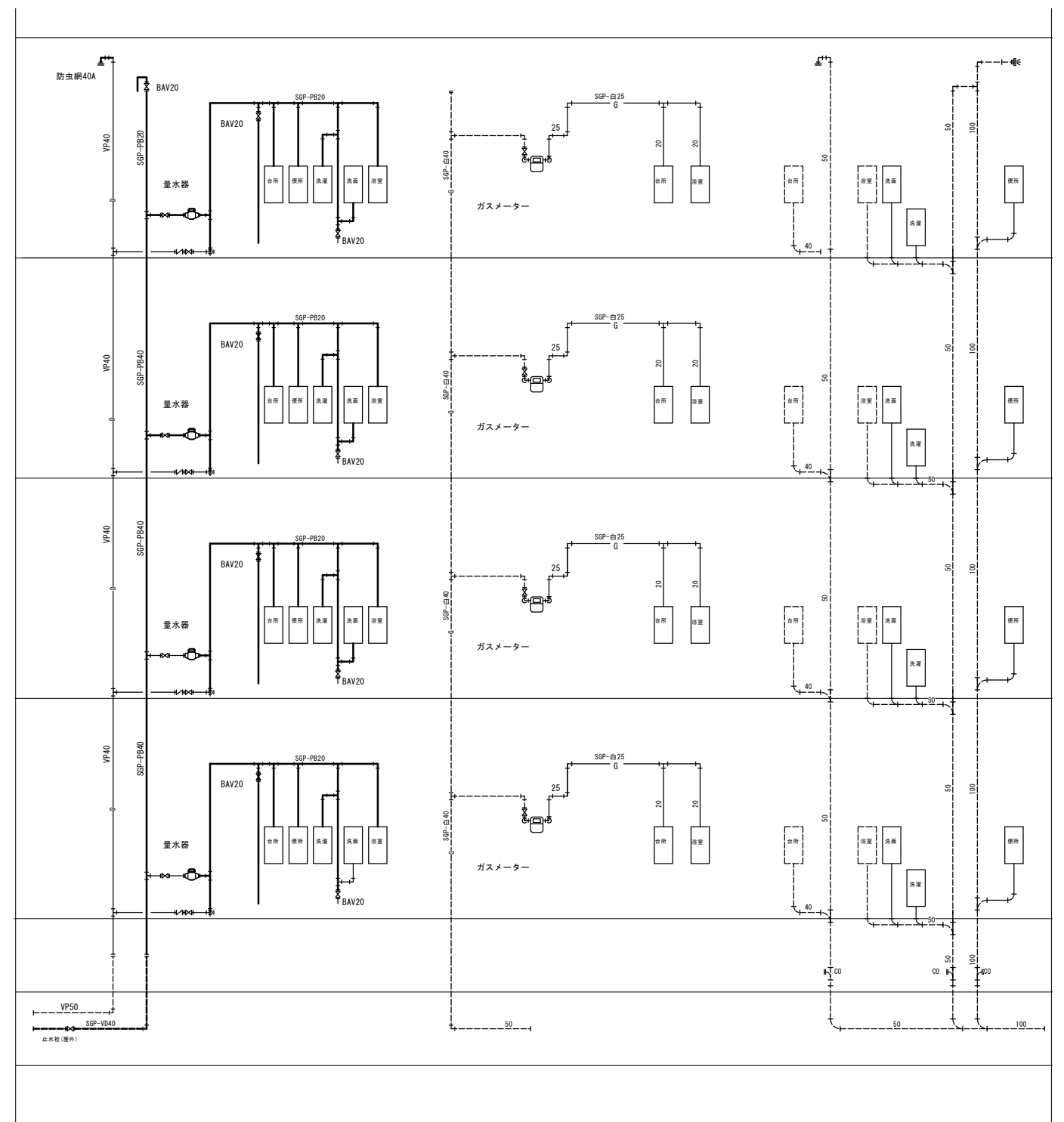
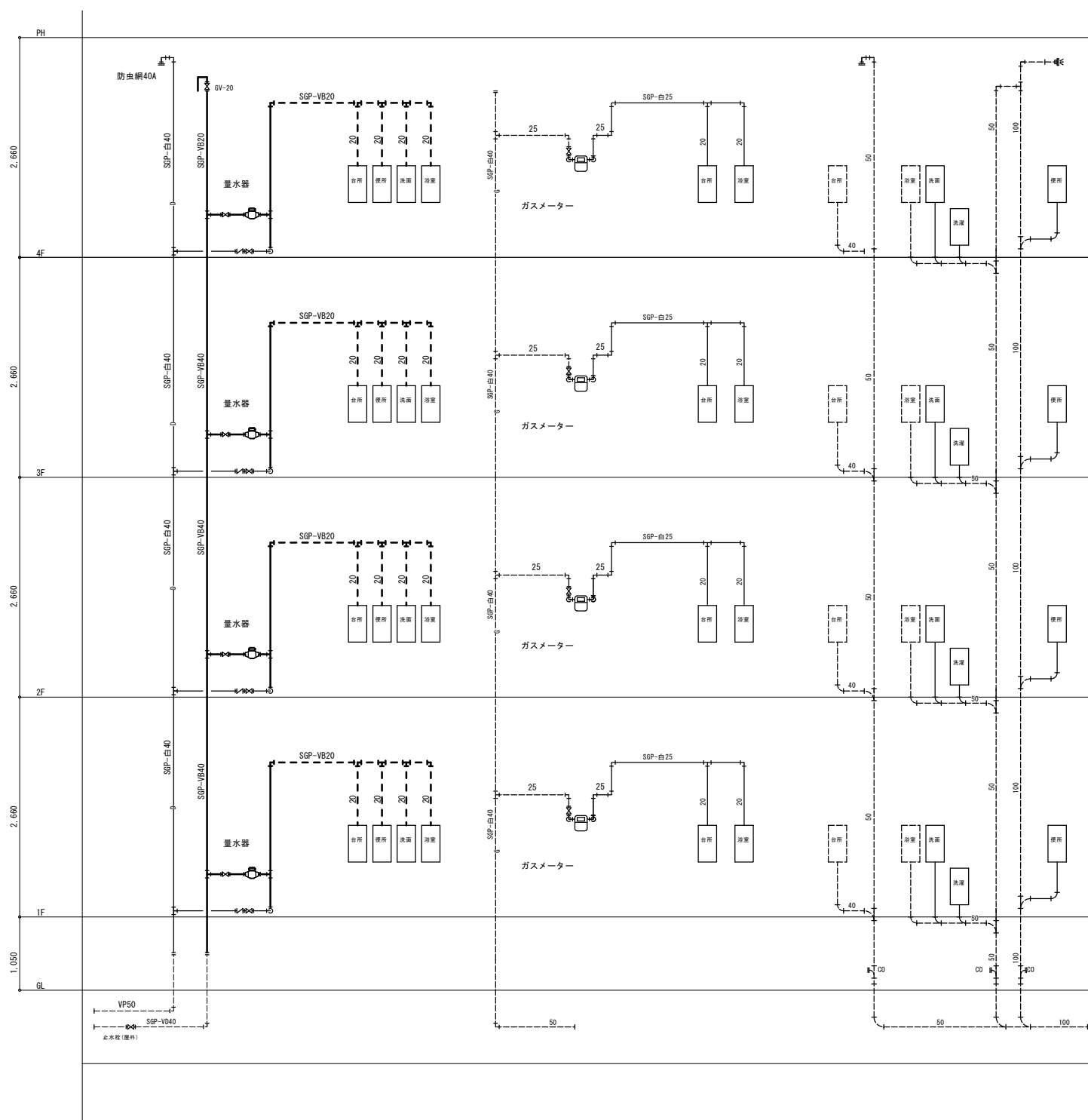


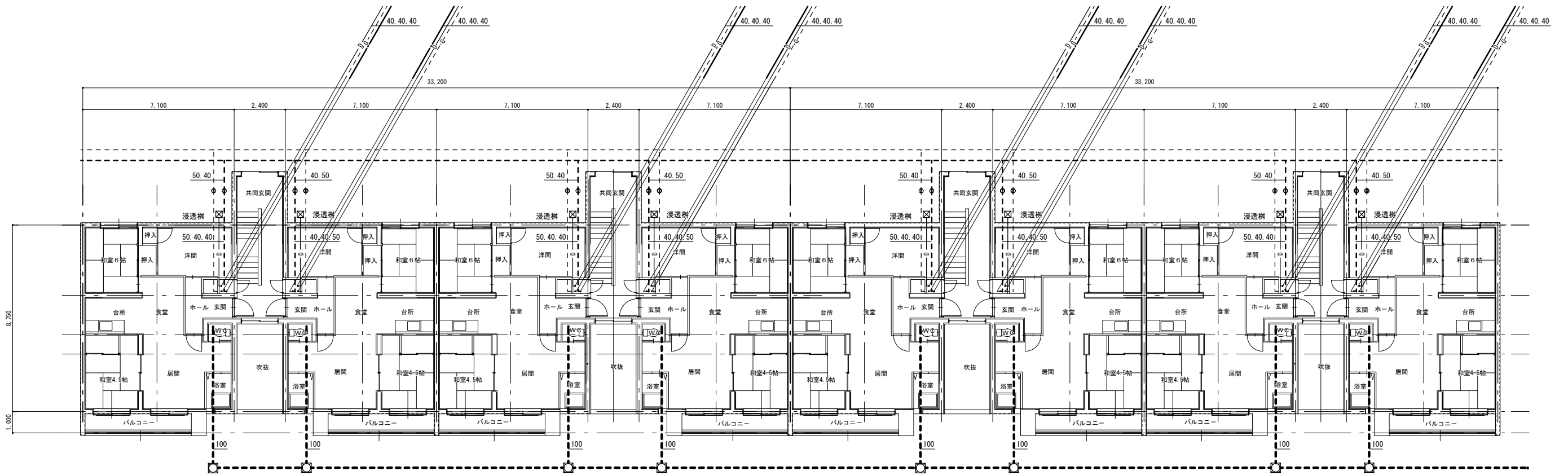
案内図

- 改修概要
1. 衛生器具設備
便器、洗面化粧台、水栓類は取替える。
 2. 給水設備
屋外制水弁より、仮設給水工事を行い給水管を改修する。
住戸内は露出配管とし、既設隠ぺい配管は残置とする。
 3. 排水設備
PS内ドレン排水立管を改修する。
洗濯機排水器具を取替える。
 4. ガス設備
住戸内ガス配管を改修する。
住戸内は露出配管とし、既設隠ぺい配管は残置とする。
 5. その他
本工事は住戸を使用しながらの改修工事であることから安全管理に配慮する。
住戸内の設備はその日の作業終了時から次回作業開始時まで使用できる状態にし工事を進めていくこと。

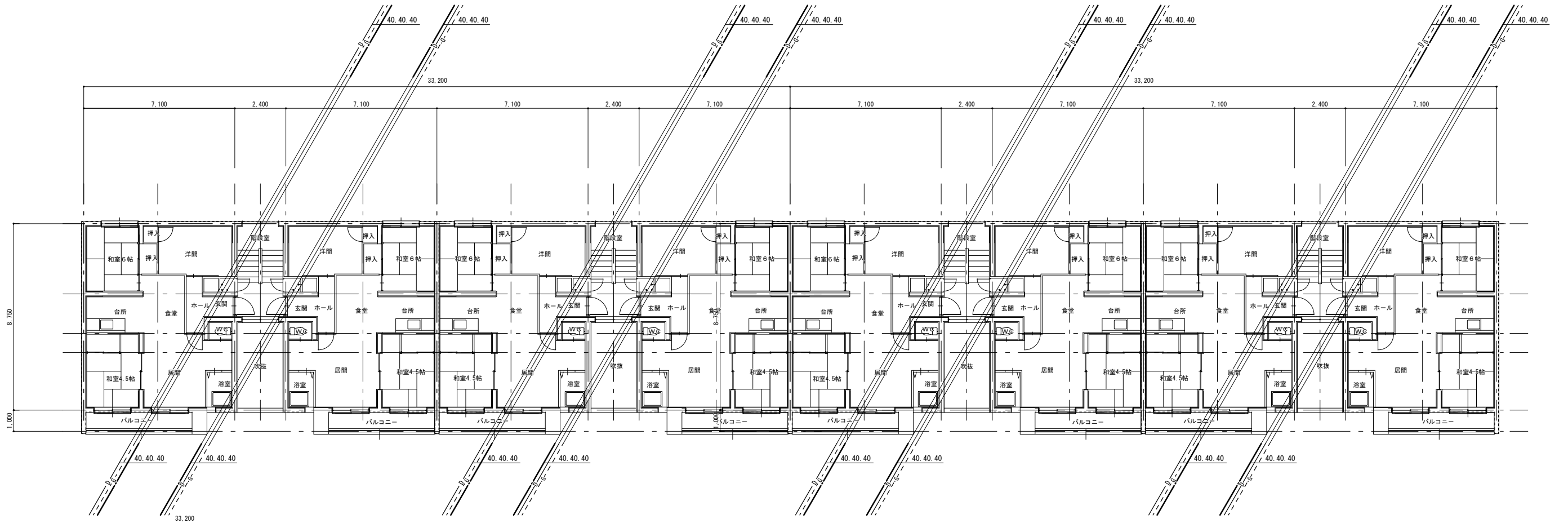
宮園団地 1～5号棟

今回工事	棟番号	住戸タイプ	階数	戸数	階段室	住戸面積	延床面積
○	1	3LDK	4	32	4	61.0	2,184.8
	2	3LDK	4	16	2	61.0	1,092.4
	3	3LDK	4	16	2	61.0	1,092.4
	4	3LDK	4	16	2	61.0	1,092.4
	5	3LDK	4	32	4	61.0	2,184.8



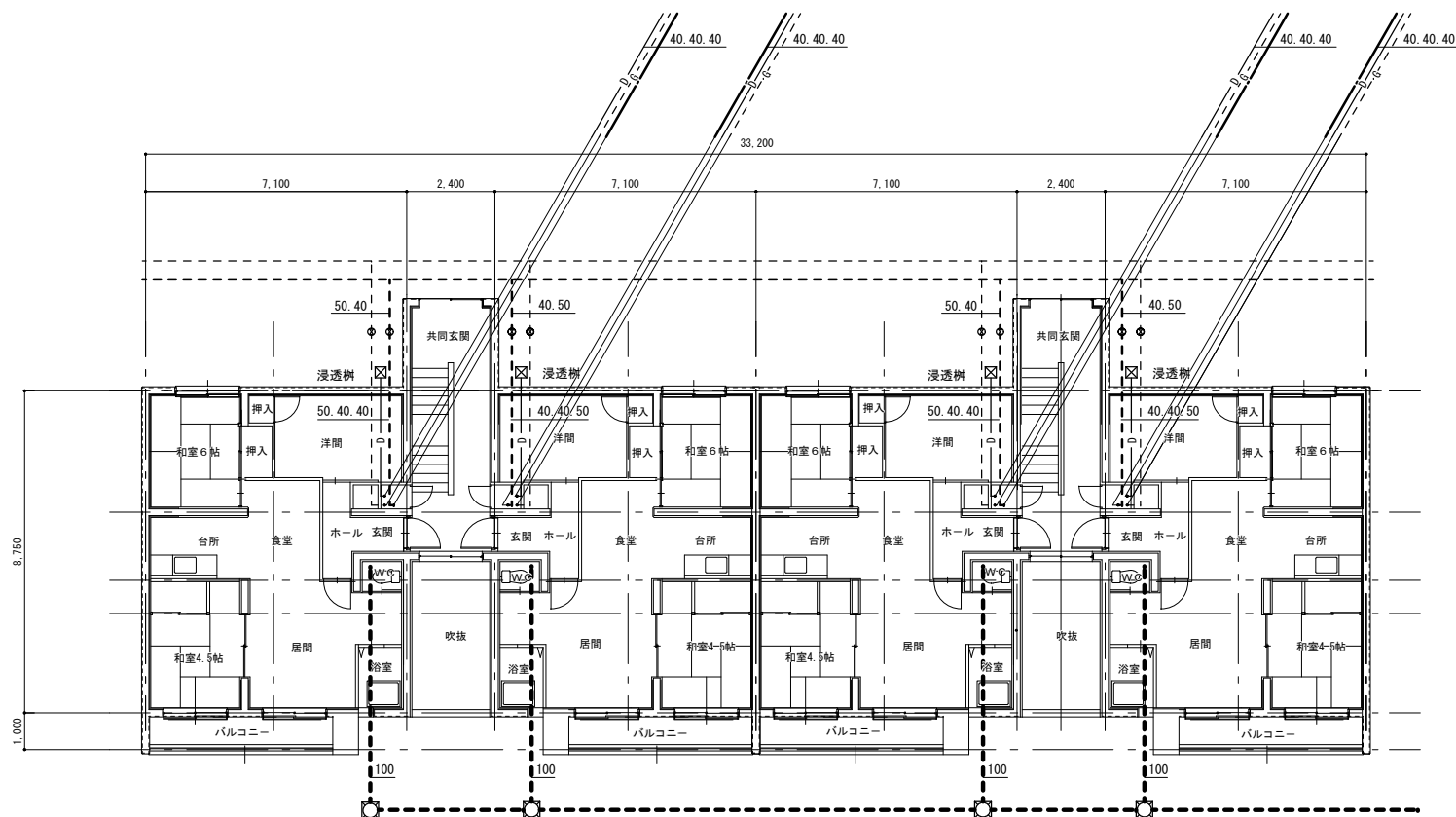


(1,5号棟) 1階平面図 S=1/100

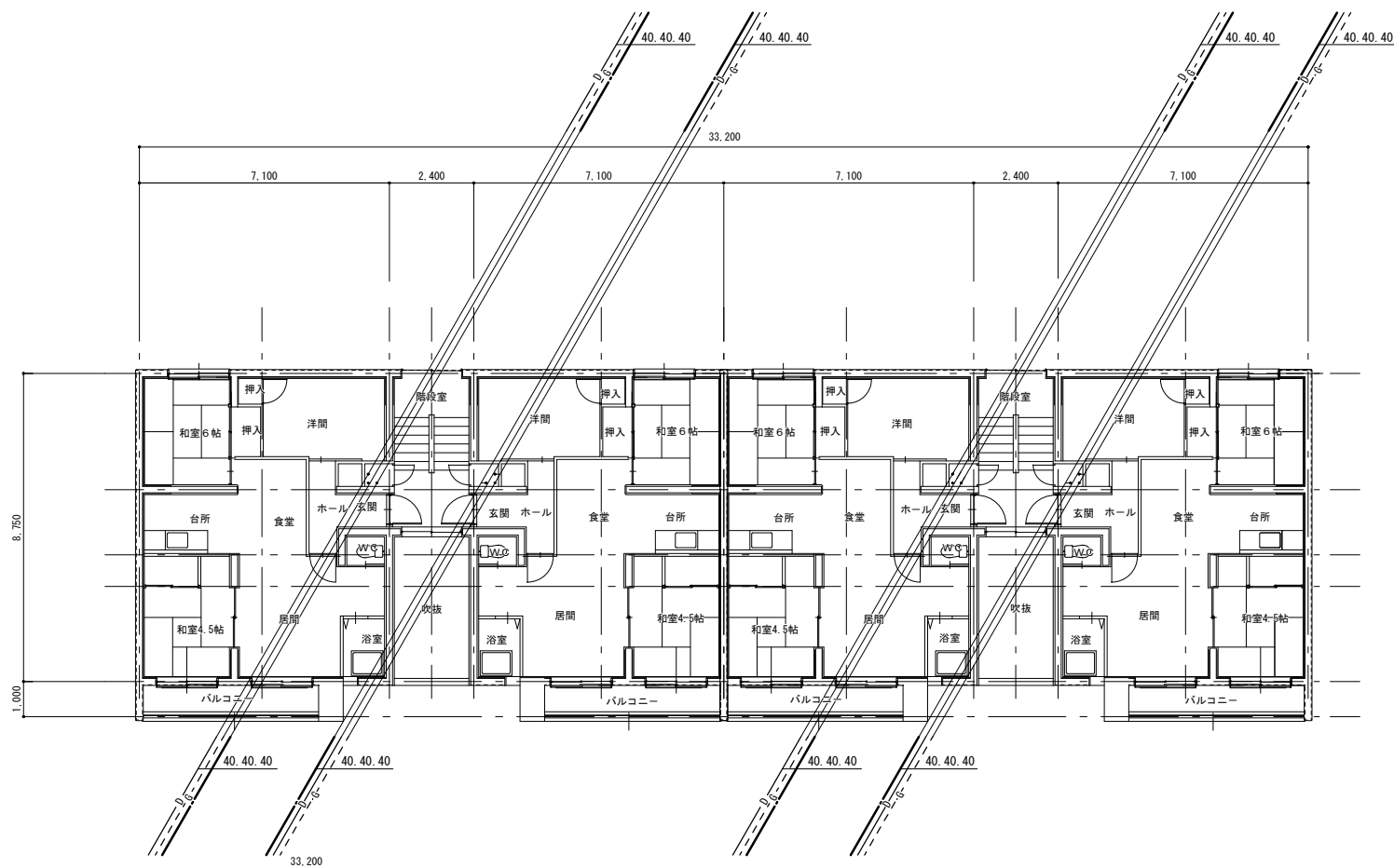


(1,5号棟) 2～4階平面図 S=1/100

吉川設備設計事務所			県営住宅(宮園団地)屋内配管その他設備改修工事		図面番号 M-6
設計責任者	建築設備士 吉川 武男	登録番号0100-3213KD	給 水 設 備	32戸建 1～4階平面図	
〒036-8095 青森県弘前市大字城東4丁目7の1			縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	令和4年3月 日 製図 ①	検図
TEL0172-27-5771					



(1、5号棟) 1階平面図 S=1/100

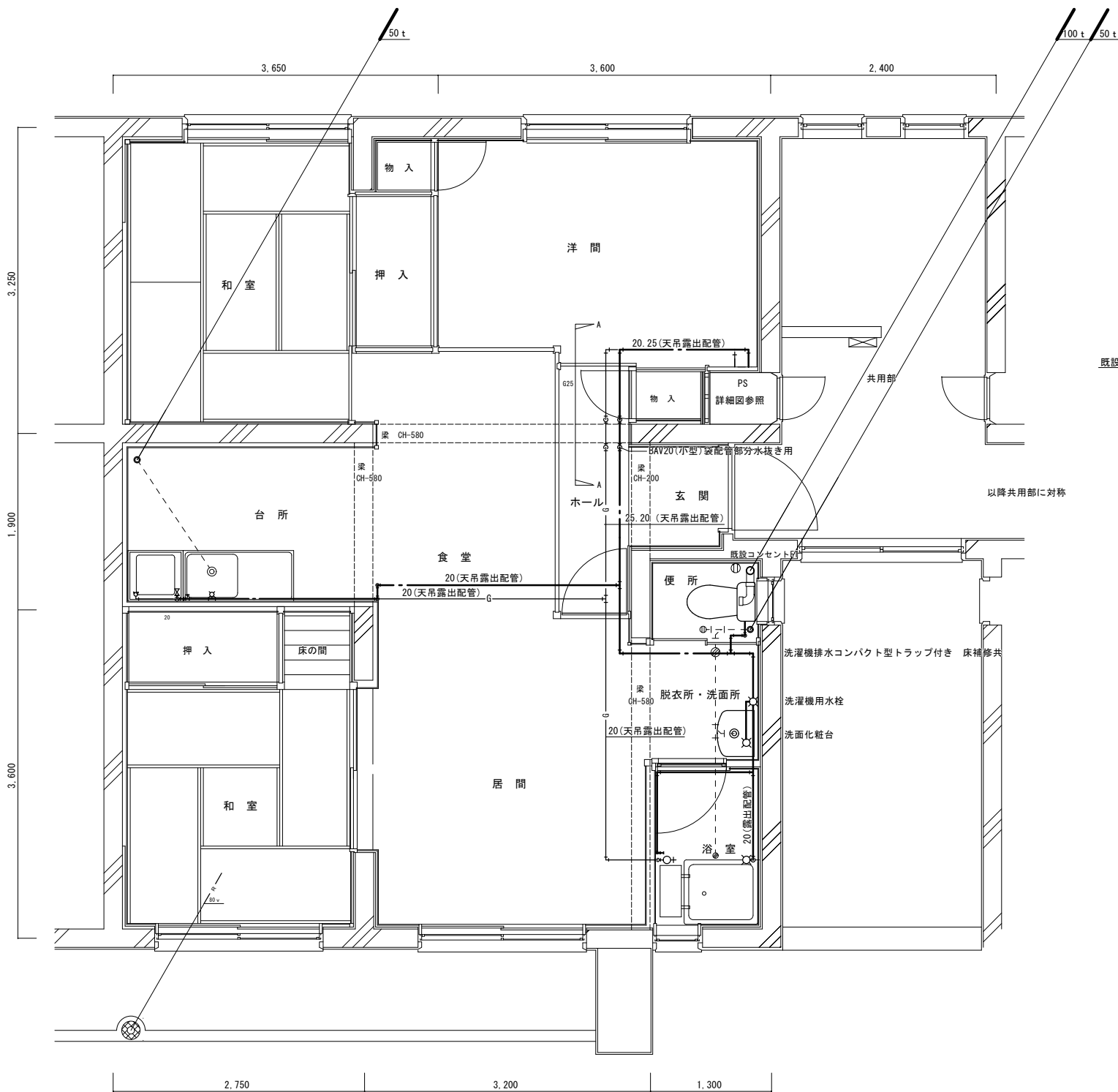


(1、5号棟) 2~4階平面図 S=1/100

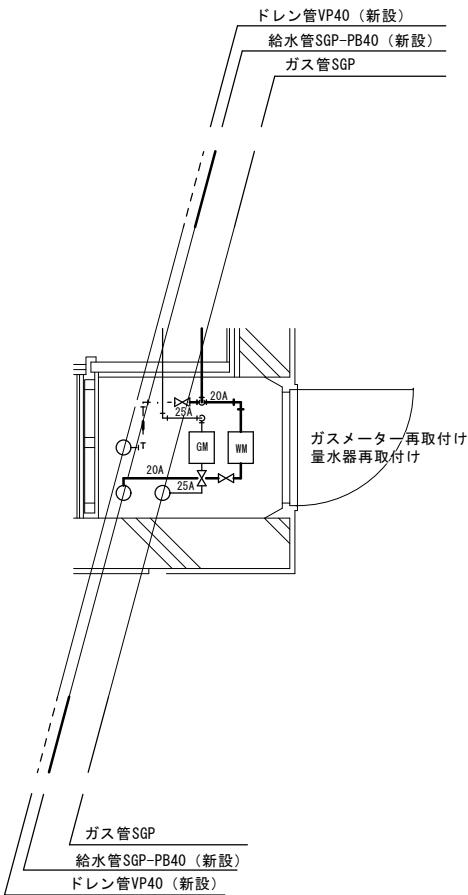
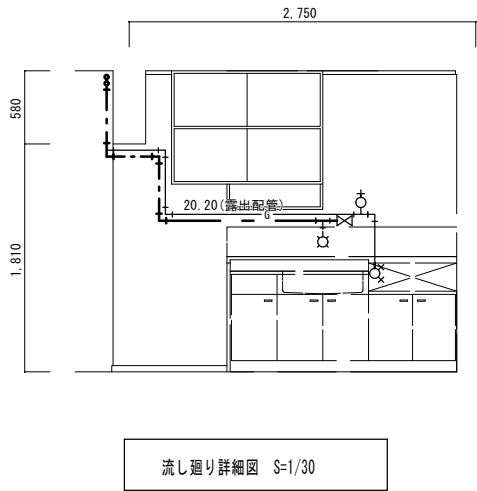
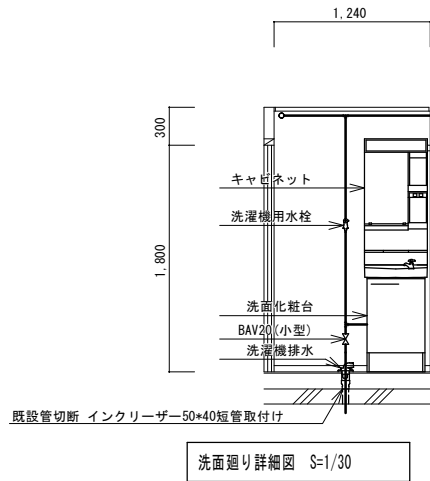
吉川 設 備 設 計 事 務 所				泉管住宅（宮園団地）屋内配管その他設備改修工事				図面番号 M-7
設計責任者	建築設備士	吉川 武男	登録番号0100-3213KD	給 水 設 備	1 6 戸建 1 ～ 4 階平面図			
〒036-8095 青森県弘前市大字城東4丁目7の1 TEL0172-27-5771				縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	令和 4 年 3 月 日 製図 (印)			検図



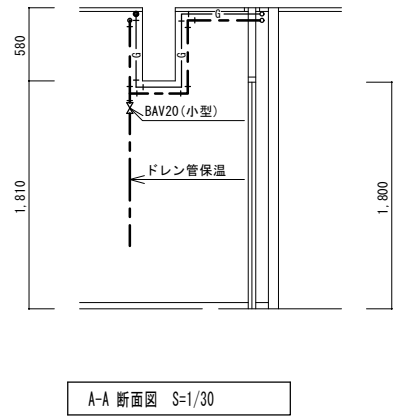
改修内容（住戸内）				
場所	改修内容	改修前	改修後	備考 参考型式
便所	腰掛便器取替	改修前ロータック手洗付 普通便座	C 210R、防露式 暖房便座	TOTO CS670BP S6671BNCL TCF116 Y9201 LIXIL BC110PTU DT5800NBL CF-18AJS CF-118
	洗面化粧台取替	500タイプ 鏡600×450 単水栓	500タイプキャビネット付単水栓	TOTO LDA506ADU LMA500E LIXIL FTV1N-503N/VP MFK-501S ミヤコ MB44ANM MB44DZ
洗面所	洗濯機排水器具取替	洗濯機排水金物	コンパクト型トラップ付	TOTO TW11RF LIXIL LF-WJ50KQ-U
	洗濯機用水栓新設		単水栓（緊急止水機構付）	
台所	水栓取替	自在水栓 分岐栓	泡沫自在水栓 ストレート止水栓	
	ガス栓・コック取替	ヒューズコック2口・ガスコック	ヒューズコック2口・フレキガス栓	
浴室	水栓取替	自在水栓	泡沫自在水栓 ストレート止水栓	
	ガス栓取替	フレキガス栓	フレキガス栓	
共通	給水管改修	SGP-PE20埋め殺し	SGP-PE20露出	住戸内保温外装：屋内露出仕様
	ガス管改修	SGP管20埋め殺し	SGP（白）20露出	器具・水栓・バルブは撤去
不用となった配管の接続口はプラグ止すること				

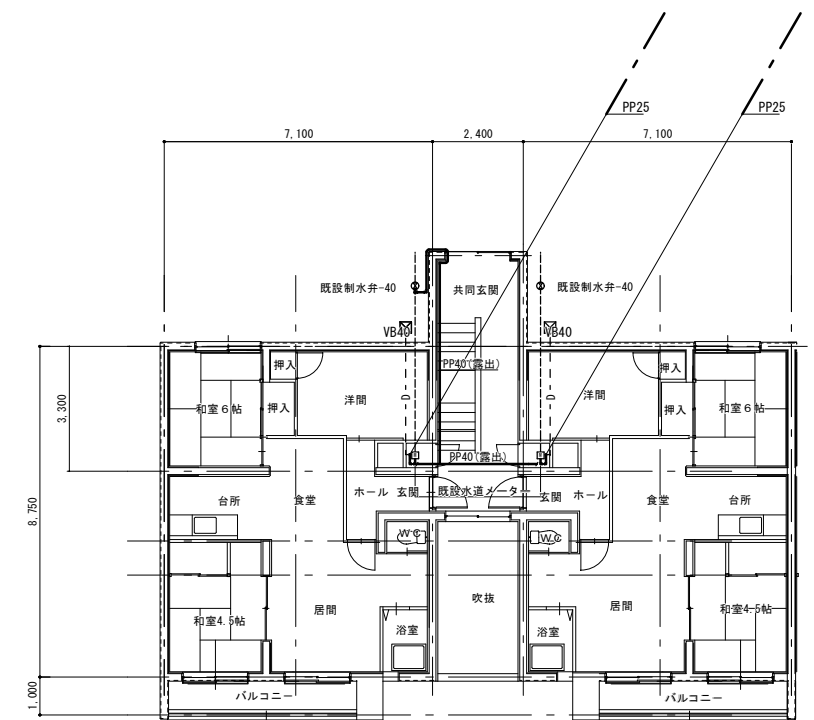
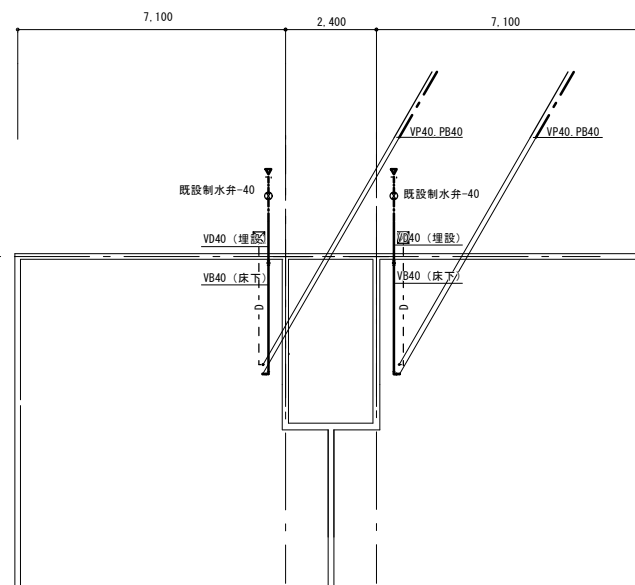
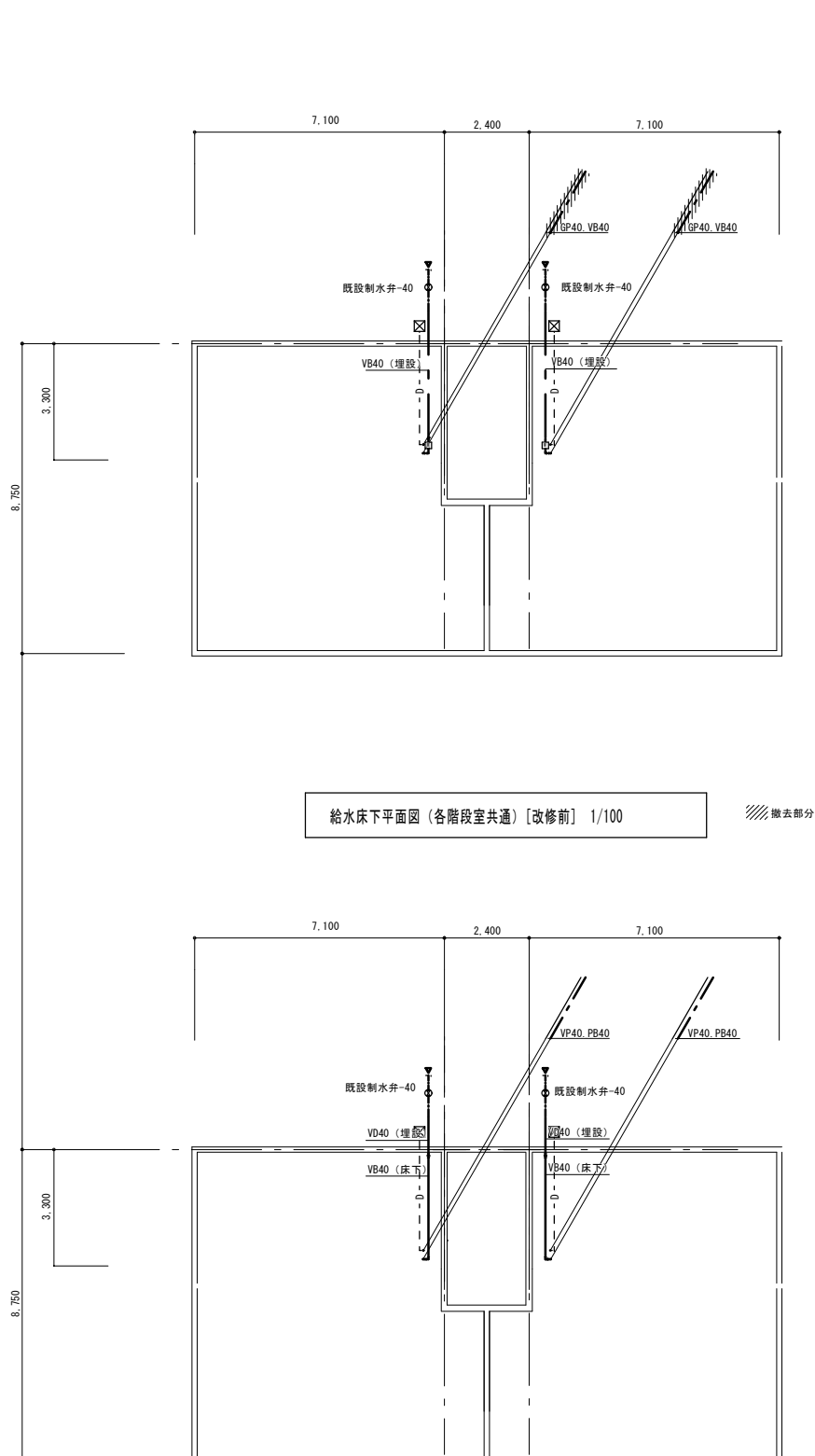
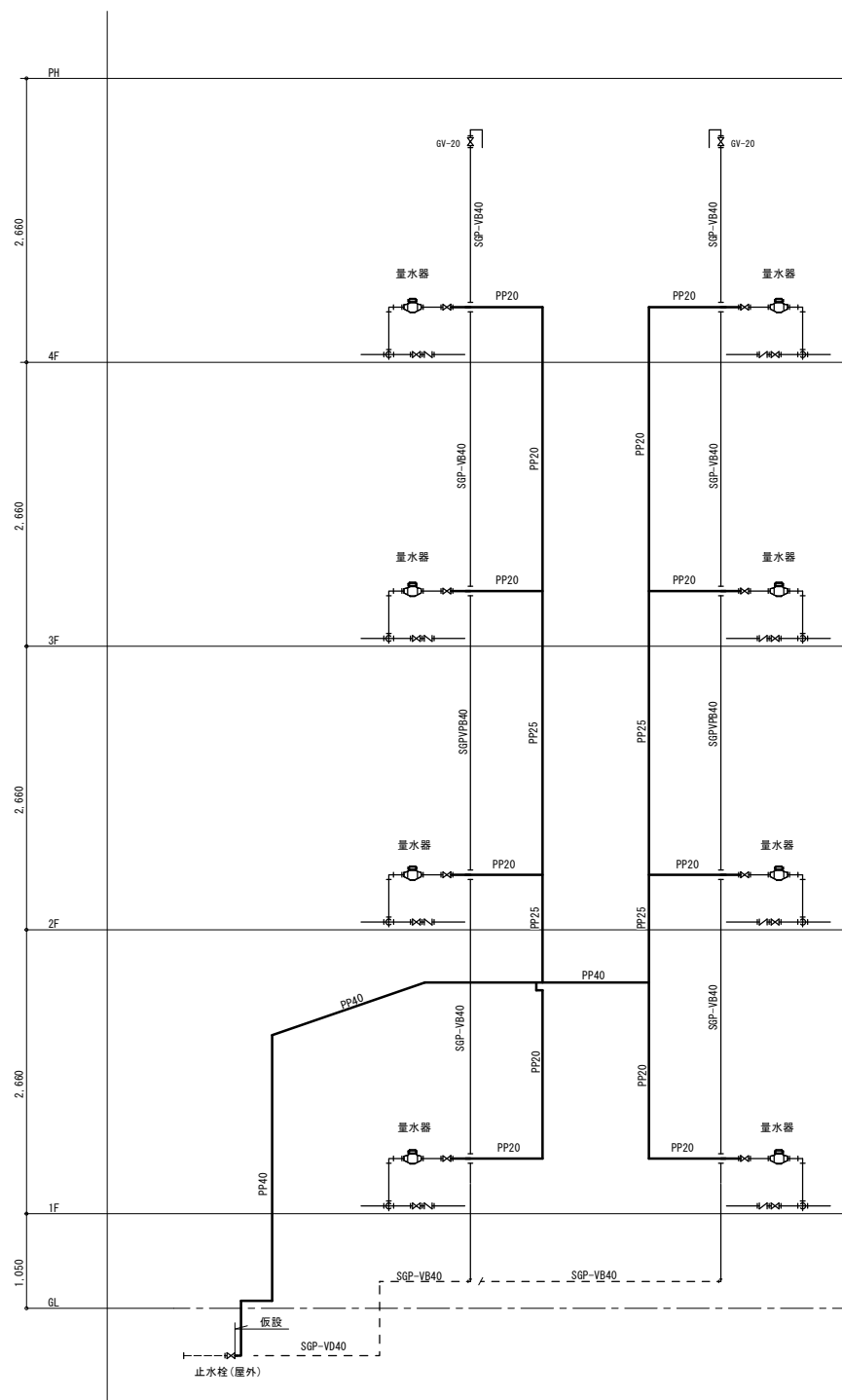


平面詳細図[改修後] S=1/30



PS詳細図[改修後] S=1/20





仮設給水工事概要
 P S 内及び住戸内給水管更新工事着手前に工事による断水時間を可能な限り短縮し
 入居者に影響がないよう仮設給水工事を行う。
外部既設制水弁よりPP40にて仮設配管する。仮設立管はP S 内とする。
 P5への分岐管はPP25、各戸既設水道メータへPP20にて接続し、給水供給確認ご既設管の更新を行う。
 仮設使用分岐管は他の階路室に順次転用する。